

## 石川武美の生涯と事業

大正6年3月、雑誌「主婦の友」を創刊した石川武美は、生涯を出版事業に捧げる一方で、その事業によって得た利益を雑誌の購読者である女性に還元したいと考えていました。

そして、石川の理念である「女性文化の向上と家庭の幸福」を実現させる手段として、彼は昭和22年12月1日、女性専用図書館である「お茶の水図書館」を設立しました。

ここでは、当館の創設者・石川武美の生涯を、当時の貴重な写真とともに、略年譜にまとめました。

### 石川武美 略年譜

明治20年 1887	10.13   大分県宇佐郡安心院町で誕生。父又造35才、母わさ30才の三男
明治35年 1902	4   県立宇佐中学校に入学
明治36年 1903	9   中学2年のとき中途退学し、単身上京 10   神田神保町の同文館書店に小僧として入り、やがて早稲田支店勤務となる。店の売り上げを東京一にする
明治37年 1904	—   このころより、キリスト教の信仰に入り、弓町本郷教会に通う
明治39年 1906	10   同文館の神田本店に移り、教育雑誌の営業を担当する
明治40年 1907	夏   本郷教会の海老名弾正牧師により洗礼を受ける 12   徴兵で小倉の歩兵第四十七連隊に入隊
明治42年 1909	12   小倉連隊を除隊。同文館で倉庫係となる
明治43年 1910	—   同文館発行の「婦女界」の改革案を出し、羽仁吉一が編集責任者となり、都河竜が編集協力、石川武美が営業を担当する
明治44年 1911	4   同文館を退職。5月に「婦人之友」に迎えられる
大正1年 1912	—   「婦人之友」を辞める 10   「国民倶楽部」を独力創刊、3号で失敗中止
大正2年 1913	2   都河竜の再発足した「婦女界」に協力

大正3年  
1914

5.18 | 長谷川かつと結婚。武美28才（数え年）、かつ23才（数え年）。海老名弾正牧師の司式により本郷教会で挙式



武美(左)と長谷川かつ(右) 結婚式

大正4年  
1915

2.16 | 長女恵美子誕生

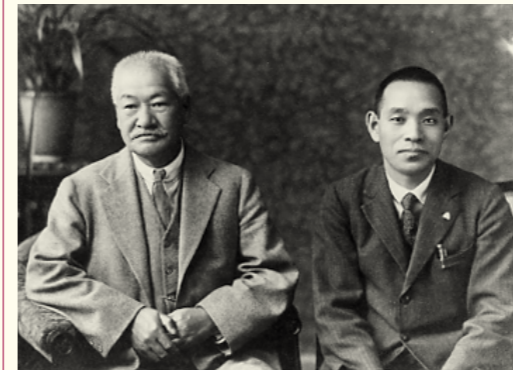
大正5年  
1916

8 | 「婦女界」の仕事を辞める  
9.18 | 主婦之友社を創業。東京家政研究会の表札をかけ、事業を始める。28才  
10 | 著書『貯金の出来る生活法』(50銭)発行  
11.17 | 二女富美子誕生

大正6年  
1917

2.14 | 「主婦之友」を創刊、3月号発売。29才  
9 | 神田区表神保町2番地に移る。このときから社と自宅を分離する。自宅は昭和2年に駿河台邸が完成し移るまで、赤城元町、滝野川、渋谷上渋谷、渋谷富ヶ谷、渋谷神山、代々木深町など転居

大正9年 1920	6   神田区表神保町1番地に移る
大正10年 1921	5.20   東京家政研究会の社名を主婦之友社と改める
大正12年 1923	6.8   神田区駿河台南甲賀町17番地（現千代田区神田駿河台1丁目）の朝倉病院の建物を買いとって移る 9.1   関東大震災で、移って2ヵ月余りの駿河台の社屋を焼失する。自宅は渋谷神山町 9.9   ウィリアム・メルル・ヴォーリス(William Merrell Vories)に、新社屋の設計を依頼する 12.15   徳富蘇峰を助け、国民新聞社副社長となる
大正13年 1924	5   国民新聞社副社長を退く 11.1   主婦之友社を株式会社とし、取締役社長となる。37才
大正14年 1925	11.8   駿河台の新社屋完成し、移る
大正15年 1926	1.21   著書『信念の上に立つ主婦之友社の経営』を発行 8.12   著書『不運より幸運へ』を発行
昭和6年 1931	10.16   駿河台の新宅に引っ越す。新宅はヴォーリスの設計
昭和2年 1927	1.19   母わさ72才で大分県安心院で永眠
昭和10年 1935	2.20   長女恵美子、井上数雄と結婚 3.22   井上数雄・恵美子夫妻留学のためドイツに出発



徳富蘇峰氏(左)と武美(右)

昭和12年 1937	5.1   ヘレン・ケラーを駿河台の宅に迎える
昭和13年 1938	3.15   初めての孫、数雄長女とも子誕生
昭和14年 1939	1.24   父又造87才で大分県安心院で永眠 12.7   井上数雄・恵美子夫妻と養子縁組み、井上一家は石川と改姓する
昭和15年 1940	5.20   著書『わが愛する生活』を発行 9.4   清水農園へ、こののち毎月数日間は清水農園の生活 9.9   日本出版文化協会の設立準備委員となる 12.19   日本出版文化協会が誕生、その監事となる 12   徳富蘇峰から大森山王草堂の成篋堂文庫と、土地建物を買いとる
昭和16年 1941	8.11   大森の成篋堂文庫を訪う 9.10   財団法人文化事業報国会(現当財団)の設立認可、理事長となる



武美(左)とヘレン・ケラー女史(右)



大森の成篋堂文庫の書庫前室

昭和17年 1942	<p>3.8   (社) 日本図書館協会 (日図協) へ「図書館事業の総合的研究」として3万円を寄付</p> <p>3.27   財団法人文化事業報国会第1回理事会を丸の内会館で開く</p> <p>5.19   日図協の年次総会で名誉協賛員に推薦される</p> <p>8.24   数雄長男晴彦誕生</p> <p>11.25   著書『わが愛する家庭』を発行</p>	昭和25年 1950	<p>10.13   追放解除となる。63才</p> <p>11.28   東京出版販売株式会社 (東販) の社長となる</p>
昭和18年 1943	<p>3.11   日本出版会が設立され、理事、配給部長となる</p> <p>6.4   日本出版配給株式会社 (日配) 社長となる</p>	昭和27年 1952	1.30   主婦之友社取締役となる
昭和19年 1944	<p>4.15   西本願寺本萬葉集その他万葉集の図書を佐佐木信綱より買いとる</p> <p>4.30   著書『わが愛する事業』を発行</p>	昭和29年 1954	1.8   著書『私の百姓生活』を朝倉書店から発行
昭和20年 1945	<p>6.4   日本出版会会長となる</p> <p>9.28   日本出版会解散、会長を辞める</p> <p>11.27   日配の社長を辞め、主婦之友社に帰る</p>	昭和32年 1957	10.11   第1回印刷文化賞を受ける
昭和21年 1946	<p>5.15   主婦之友社取締役社長を辞める。石川数雄が後任社長となる</p> <p>9.18   著書『信仰の道』を発行</p> <p>10.18   妻かつとともに駿河台から清水山荘に移る。清水農園での百姓生活始まる</p>	昭和33年 1958	2.19   菊池寛賞を受ける。70才
昭和23年 1948		昭和34年 1959	3.28   著書『信仰雑話』を発行
		昭和35年 1960	3.18   著書『職場雑話』を発行
		昭和36年 1961	1.5   心臓病の急変で永眠。享年73才
		昭和37年 1962	2.20   遺著『家庭雑話』を発行



清水農園にて

3.5 | 公職追放の指定を受ける。60才